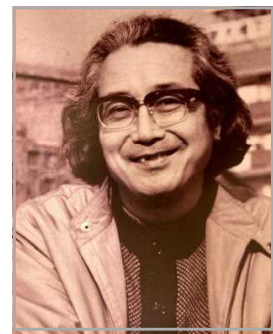


すれ違う場所 9月1日 二学期の始業によせて

夏の終わりの土曜日の午後、徳島県立文学書道館を訪れました。
開催されるのを知ってからずっと気になっていた
文学特別展「詩人・吉野弘の世界」を鑑賞するためです。

※9月27日(日)まで開催



詩人・吉野弘よしのひろといっても、
「誰だそれ？」っていう人の方が多いと思うのですが、
「国語の教科書に収録されていた詩『夕焼け』の作者」と言われたら、
皆さんの父母の世代ならきっと思い出す人もいます。
その後も、教科書には『奈々子に』などいくつかの作品が載せられたりしました。

さて、特設会場には、詩集や写真、
愛用していたメガネ・筆箱・原稿用紙、
家族を描いた水彩画などと共に
私の好きな「生命は」の自筆折本も
展示公開されていました。
その詩は、右のように始まります。

生命いのちは

吉野 弘

生命は自分だけでは完結できないように
つくられているらしい
花も
めしべとおしべそろが揃っているだけでは
不十分で
虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする

つまり… 詩人は、
生命ある者は、自分だけでは不完全で、
自分以外の他者の力を借りて「完結」することができるというのです。



私たちは、誰もが、
「欠如けつじょ」=「足りない部分」を持っていて、
それをお互いに(もらう側も与える側も)知らない間に、
他者によって満たしてもらっている。
と、この詩の後半は続いていきます。

今日から2学期がスタートします。
授業に休み時間。給食に部活動。津田中祭や遠足などなど。
きっと去年ひょうまでは違う新しい津田中の風景が、周りの友達や先生との時間が、
今学期も広がっていくことでしょう。
そんな中で、笑ったり泣いたり、分かったり迷ったり、悩んだり決意したり……
自分一人の中で完結しているように思っているけど、実は違うことをこの詩は教えてくれます。

この詩の最後は、次の一節で結ばれます。

中学校時代に、いっぱい「出会う」ということが、
きっと、あなたとその周りの生命を
いっそう満たしていくことでしょう。

2学期も「学校」はそんな場所。皆さんの生命いのちがすれ違う場所に違いありません。

私も あるとき
誰かのための虻あぶだったろう

あなたも あるとき
私のための風だったかもしれない